



文曾



特別
子12
3643
17



本曾
 八百萬神も引まひかどろり名乃
 引箭乃道ろろ久しきれ本曾杯
 是ハ本曾義仲と云神事なる
 少ても卒家ハ朝前五丈のひろろろ
 城を責落し都合其勢カ十万
 余騎沈砥並山まで押ふもろ



故梅若誠太郎氏
 昭和四年十月廿七
 梅若重氏
 寄贈
 新館圖書印

山

みるはわづら五萬金計略計
 その流しごとく白旗投多し
 のへり黒坂の字は朽きく敵乃
 心を疑りしめ山中はたむらあせ
 其入道平撥平より一度に
 已俱利未伽羅が谷へ敵を落しんと
 用意をあて義仲のうけ撃

上

と七年はあうは其所は
 精兵一萬金計を率垣生よ
 陣をめぐらさるる池田
 中は後のごとく黒坂の字は多
 乃白旗投多し作は平家の
 是を見てあを源氏を撃つ
 たる者取らめしきそはあま

夏ハ便宜ノ所ありと。砥並山乃
山中積ガ馬場トテ所ハ陣を
て作本音られこそ義仲ガ殿よと
あれはあつた矣合エヤウニチ明日アスヒたるべし。
かまるとそ方といふ一めありあは
ずしとく。夜ハ入イッテ押オシよきと
まらぬ面ツツルよ其由ツツルハ池田作

本音 いた池田イケダの次郎 池田 卯前ウツメ作

本音 是より水ツツルあり夏山ツツルの志
きその中ウチふ朱アカの玉垣カキほのみそく。
かろき造ツツルの社ヤシロあり。阿アまきとば
行くとやが。みずある神カミとあがめ
ちりちりツツルぞ池田 阿アまびあれツツル
垣生カキの八幡宮ヤシロをわさるをいひ。

此所も其清願乃地は之儀
 義仲行となし陣敷しにハ播磨
 御地あはれり吉兆なれいあり
 是明御前も儀 且ハ後代乃
 為ハつハ當時の行禱の為教書
 とあはれせうと思ふいふ事 因復の
 ごとく市教書ハ御納ありて然

之儀 本音 上カ
 最て儀 是明位と云きこまらる
 儀乃らうもあはれしと云す
 料紙あはれし書と云筆を和
 きるが思ひあしむるけしきもある
 古書をうつすがごとくはやくや
 願書を書仰りし本音 殿を初め

祝^{ニテ}ふぐー。覚^{上カルニ}明^ニ扱^ニに^ニたち^ニ作^ニへ
 日^{ニテ}長^{ツル}てい^ハ。幡^ノ宮^ノ神^凡は。敵^ヲを
 本^ノ城^とち^ちめ^べ。

明^{ヒト}一^ハ市^ノ一^ハ舞^ハひ^テ。敵^ハ本^ノの
 城^とち^ちめ^べ。酒^もも^もで
 又^ニあ^リを^チり^ニ。山^ノ鳩^ノ翅^をあ^へ。

以^ニて^テ。方^ノの^ニ旗^ハ。花^ヲを^リ
 受^ニの^チを^チ。と^ア。り^キれ^バ木^ノ曾^ノ
 殿^を和^軍兵^ヲ皆^一回^ヲ。と^グも。
 い^よく^カ護^を。と^グ。と^グ。と^グ。
 う^平家^ノの^チ勢^と。と^グ。と^グ。
 一^ノも^も。と^グ。と^グ。と^グ。
 一^ノも^も。と^グ。と^グ。と^グ。

木曾

六



